

N—14番 要約

(平成26年10月現在)

- 1 被害者
平成8年生まれ。接種時中学2年生（14歳）、現在18歳、愛知県居住。
- 2 接種前
バスケ部所属。学校の欠席はほとんどなし。
- 3 接種
サーバックス3回（2010年12月21日、2011年1月28日、6月23日）
- 4 経過概要
2010年12月 中学校（中2）からの連絡をきっかけに1回目の接種
2011年 1月 2回目の接種（1回目の接種後、注射部位の痛みと左腕のしびれ有）
6月 3回目の接種（中3）
2012年夏冬 高1夏休みの部活中、後ろ向きにあるいていたところ、恥骨骨折。その後、冬休み前にも恥骨を骨折。直接のきっかけは不明。
2013年 9月 左手足がしびれる（手首、足首より先の部分）。病院受診。
12月 3日間検査入院。当初、多発性硬化症を疑われる。
2014年 1月 上記病院に8日間検査入院。原因分からず。同院の心療内科を紹介される。（その後、他院の心療内科を2つ受診する。）
3月 左足に力が入らず、自転車に乗れなくなる。送迎登校が始まる。
4月 杖歩行も困難になり、校内に車で乗り入れるようになる。左腕、左足に感覚がなく、力が入らない。
6月 就寝中酷い痙攣。近隣の病院に入院。検査の結果、てんかんの可能性は否定。毎日のように痙攣がある。痙攣があると記憶が途切れてしまう。数字やひらがなも理解できない。退院後は、自宅も覚えておらず、妹や同級生も記憶していなかった。
8月 4日から30日まで、大学病院に入院。
- 5 これまでに発症した主な症状
左手足のしびれ、左腕足の運動・感覚麻痺、頭痛、疲労感、だるさ、けいれん、手足・身体の震え、動悸、脈が速い、息が苦しい、脱力、視力・聴力低下（見えない・聞こえない）、歩行が不安定、記憶力や判断力の低下（記憶がない）、気力が出ない、睡眠障害、識字能力の低下、文章理解力低下
- 6 受診医療機関
およそ10医療機関
- 7 現在の状況
左腕左足の麻痺の継続。頭痛。朝、死んだように起きられない。
- 8 救済制度の申請 申請していない。

N-14番 (愛知県)

(平成26年10月現在)

第1 はじめに

私は、平成22年12月から平成23年6月にかけて、3回にわたり子宮頸がんワクチンであるサーバリックス（以下、「ワクチン」といいます）の接種を受けました。

私がワクチンを接種するに至った経緯と、ワクチンによる副反応被害についてお話しします。

第2 ワクチン接種に至る経緯

1 ワクチン接種までの状況

(1) 接種前の生活

私は、第1回目の接種をした当時、中学2年生でバスケットボール部に所属していました。

私にはそれまで持病はなく、小中学校ともに、たまに風邪をひいたときに休むくらいで、殆ど休むことなく通学していました。

(2) 接種に至る経緯

ワクチンの接種をしたきっかけは、学校から接種に関するお知らせを受け取ったことです。いつ頃そのお知らせを受け取ったかはっきりと覚えていません。ただ、多くの友達たちは私より前に接種していました。母が私の友達のお母さんから早く接種しないと無料の期間が終わってしまうと聞いて、慌てて病院に行き、接種しました。

2 ワクチンの接種

1回目の接種は、平成22年12月21日、中学2年生の冬休み前にA内科小児科で接種をしました。注射直後は特に違和感はありませんでした。

ただ、翌平成23年1月28日に2回目の接種を受けたときには、注射した部分が痛いのだと、左手がしびれていたのだと、それをお医者さんに伝えたのを覚えています。それを伝えてもお医者さんからは特に何も言われませんでした。

そして、中学3年生になった平成23年6月に3回目の接種をしました。2回目と3回目の接種の後には特に変わったところはなく、左手のしびれもいつの間にか消えていました。

予防接種を受けた際、病院からはワクチンについて何も説明は受けませんでした。

第3 副反応及び入通院の経過

1 平成24年夏冬

ワクチン接種と関係があるのか分かりませんが、高校1年生の夏休み中、バスケットボール部の部活動中に恥骨の左側を骨折しました。部活動中といっても、激しい動きをしていたわけではなく、試合中、ただ後ろ向きに歩いているときでした。試合中、痛くて急に歩くことができなくなったのです。病院に行ったところ、手術することはできないということで、安静にして骨がくっつくのを待つことになりました。それから、部活動は全て見学するようになりました。

その後、冬休み前ころに痛みを感じ、病院を受診したところ、今度は恥骨の右側が骨折していました。そのときはいつ骨折したのかも分かりませんでした。

2 平成25年9月ころ～平成26年3月ころ

(1) 初めの症状

最初、身体に違和感を感じたのは、平成25年9月頃です。そのときは、左手足の感覚がないような感じになりました。左手の手首から先と、左足の足首から先に力が入らなくなるようになりました。例えば左手で何か持というとしても、かくんと力が抜けてしまいました。

その後、階段を降りているときや普通に歩いているとき等にも、左膝がかくんと折れてしまい、動けなくなるようになりました。一度そうなると10分位じっとしていないと動くことができませんでした。その年の6月から部活動に復帰するようになっていたのですが、また、部活動を休まなければならなくなりました。

(2) 通院の状況～B病院と心療内科の受診

B病院の神経内科を受診し、色々と検査をしました。先生からは入院して検査をする必要があると言われましたが、学校を休みたくなかったため、入院は断っていました。というのは、私は推薦で進学したいと思っていましたので、学校には無遅刻無欠席で通いたかったのです。ですが、その後も何度も左膝が抜けることがあり、このままではいつまでも部活動に復帰できないと思ったのと、アルバイトをしていたラーメン屋さんで1日に3回もラーメン鉢を落としてしまうなど今までには考えられないことが起こったため、入院して検査をすることにしました。

平成25年12月6日から8日と、平成26年1月13日から20日の2回に渡って入院しました。髄液を抜いて検査をしました。その検査の後は、酷い吐き気や頭痛が続き、本当に辛くて苦しかったです。そんな辛い思いをして検査を受けたのに、結局原因は分かりませんでした。病院の先生は初め難病を疑っていたようですが、検査の結果、そうではなかったとのことでした。

先生には心の問題だと思われたのか、心療内科を受診するように言われ、B病院の心療内科を受診しました。ですが、B病院の先生は一定の期間で変わってしまうので、同じ先生に診て貰おうと比較的近くのCメンタルクリニックに通うことにしました。その後、D大学病院の心療科に行くようになりました。そこでは待ち時間は長かったのですが、先生と話すことができるのは10分くらいでした。先生からは、わざわざ学校を抜けて受診してもこれくらいしかできないよと言われ、自分でも心の問題だとは感じていませんでしたので、3回くらい通って止めてしまいました。

3 平成26年3月から6月まで

(1) 左腕、左脚の脱力

3月に入ると、左腕や左脚に力が入らないのが酷くなってきました。高校へは自転車で通っていたのですが、3月になると、左脚に力が入らず、ペダルを踏み込めず、自転車に乗れなくなってしまいました。それでも初めは何とか左脚を引きずるようにして歩くことができましたので、歩いて登校していました。ですが、左腕と左脚の脱力は徐々に酷くなり、母に車で送迎して貰うようになりました。4月ころは校門まで送ってもらい、校門から校舎まで歩いていました。5月ころまでは、左脚を引きずりながら、何とか校舎まで歩くことができていると思います。

ですが、6月に一気に症状が酷くなってしまいました。私に記憶はないのですが、ある日、夜寝ていたところ、全身が痙攣してしまいました。母によれば、魚が陸に上がっ

たときのように、全身をバタバタさせるような酷い痙攣だったそうです。痙攣をしたのち、過呼吸を起こして、意識を失ったとのことでした。その後、毎日毎晩のように痙攣が続きました。起きているときも、手足が勝手に動いてしまうことがありました。

(2) Eセンターへの入院

私が自転車に乗れなくなったころから、母は、母の友人からワクチンの影響ではないかと聞き、色々と病院を調べたりしていたようです。母は、私が痙攣するようになってから、Eセンターの受診予約をとっていました。ですが、ある日、私の痙攣が酷く、舌がねじれて動かなくなってしまい、ろれつも回らなくなってしまいました。そこで、急遽、6月10日から入院することになりました(18日退院)。そこでは髄液検査もし、スペクトでの検査もやりました。

髄液検査の後は、以前と同じように吐き気や頭痛が酷く、ずっと横になっていました。検査の結果、てんかんではないということは分かりました。先生からはワクチンの副反応の疑いとはいえるとしても、直接の原因は分からないとのことでした。また、頭痛に対して痛み止めを処方されましたが、全く効果がありませんでした。

Eセンターに入院中、私は数字が読めなくなってしまい、携帯電話の暗証番号を押すことができなくなってしまいました。ひらがなも読めなくなって自分でも驚きました。私は、この入院中から車いす生活になりました。また、自分では覚えておらず、後に母から聞いたことなのですが、Eセンターに入院したのは6月10日だったのに、私はその前日が5月20日だと思っていたようです。5月20日はバスケットボール部の大会でした。私は全く動けない状態だったのですが、顧問の先生やチームメイトが、ラスト30秒間だけ私をゴール下に立たせてくれたのです。私はふらふらしながら立っているのがやっとでしたが、30秒間だけでも試合に出ることができ、とても嬉しかったのを覚えています。私は、Eセンターに入院したときに、「昨日の試合は楽しかった。」と、5月20日の試合のことを口にしたそうです。

4 Eセンターの退院後から平成26年8月まで

(1) 退院後の症状

私は6月18日にEセンターを退院しました。私は、母と一緒に車で自宅に戻ったのですが、自宅も覚えていなかったらしく、帰宅しても「ここどこ？」と聞き、自分の家ではない、帰らせて欲しいと母に言ったそうです。また、妹のことも覚えていませんでした。そして、家に帰ろうと、無理に脚を引きずって玄関から外へ出ていったものの、マンションの階段が降りることができず、母になだめられて自宅に戻ったそうです。退院後、翌日から学校に行きましたが、クラス全員の名前と顔が分かるはずなのに、数人以外、誰なのか全く分かりませんでした。

その後も自分では分からないうちに家を出て、外で気がつくことがありました。痙攣があると記憶が飛んでしまい、次の痙攣で記憶が戻るといった具合です。ただ、痙攣から痙攣までの記憶はありません。

痙攣を起こしそうになると何となくふわふわした感じがしてきます。学校でそんな感じがしてきたときには直ぐに母に連絡をし、迎えに来て貰います。母に迎えに来て貰った直後、車の中で痙攣を起こしたこともあります。

Eセンターを退院後、数字やひらがなは読めるようにはなりましたが、漢字は読むことが苦手です。書くのも自分ではちゃんと書いているつもりでも、偏と旁がぐちゃぐちゃ

に並んでいたりします。簡単な文章を読んでも、意味を理解することはとても難しいです。

また、いつ頃かはっきりと覚えていませんが、あるときから左耳が聞こえにくくなり、数日後には左目も見えにくくなりました。左耳が聞こえていないのは、たまたま右耳を右腕に押しつけた状態で机に突っ伏していたとき、母が近くで私を呼ぶ声が全く聞こえていなかったことで判りました。その後、半日間、全く目も見えず、耳も聞こえなかったこともあります。そのときは何も見えず、何も聞こえず、本当に恐ろしかったです。

(2) 入通院の状況

平成26年7月には、遠方のFクリニックを受診し、ビタミン点滴とビタミン剤の処方を受けました。母が、色々と調べて受診したものです。ビタミン点滴を受けた後、初めて頭痛が治まりました。でも、とても遠かったので、先生から自宅に近い病院を紹介され、その後、Gクリニックを受診し、ビタミン剤の処方を受けました。

その後、平成26年8月4日から30日まで、H大学病院の神経内科に入院しました。そこでは検査だけでなく、リハビリをしていました。また、入院中、主治医の先生から精神科も受診するように指示を受けて受診しましたが、精神科を初めて受診したときにいきなり先生から「車いす生活を楽しんでるんでしょ？」と言われ、とても傷つき、看護師さんに相談したうえ、精神科の受診は止めました。

第4 現在の状況

1 現在の症状や生活について

退院後も左腕左脚の麻痺は変わらず続いています。また、頭痛もずっと続いています。常にぎゅーっと締め付けられるような痛みがあります。また、記憶障害や識字障害も依然として続いています。夜気づくと自分が自宅を出て外に居たということもあります。最近では心臓が締め付けられるような痛みもありました。

記憶が続かず、学校の授業もついて行くことは難しいですが、友人や学校の先生が私の症状を理解してくれ、助けて貰っています。ただ、夜に脚がムズムズして眠れなかったり、目が覚めても身体が直ぐに動かなかったりして、朝起きることが非常に辛く、時間通りに登校することは余りできていません。

2 通院状況

治療については、H大学病院の先生から、退院後もリハビリを続けるように言われ、現在はI病院で週に1回リハビリを受けています。ビタミン剤の処方はH大学病院の先生に止めるように言われたので、H大学病院を退院した後は止めています。

第5 家族への影響

母は、昼に倉庫作業の仕事を、夜にコンビニの仕事をしていたのですが、私の世話のために夜の仕事を辞めました。夜間、私が一人で知らない間に外出してしまったりするためです。

また、H大学病院に入院していたときには、母は車で何度も日帰りで病院に来てくれました。ガソリン代もかかっていると思いますし、母に相当な負担をかけていると思います。また、父や妹のことも覚えていなかったりと、家族みんなに迷惑や心配をかけたと思います。

第6 おわりに

私は、高校に入学したときから推薦による進学を目指していました。そのため、無遅刻無欠席で登校するつもりでした。部活動も小学校から続けていたバスケットボール部で頑張ろうと思っていました。ですが、私が思い描いていた学校生活は崩れ去ってしまいました。私は、以前から看護系の専門学校へ進学したいと思っていましたが、推薦を受けることはもちろん、受験することも断念せざるを得なくなりました。左腕左脚が麻痺した状態では、看護系の学校への進学は無理だろうと言われたからです。残念でたまりません。

とにかく私の身体や生活を元に戻して欲しいと思います。